



ゆづりは

堺市立図書館だより

第20巻 第4号 (通巻77号)

発行日 令和8年3月10日
編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
電話 072 (244) 3811
FAX 072 (244) 3321
https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/
libcontents/search/?gid=1025



▲電子版

「図書館利用者アンケート」にご協力いただきありがとうございました!



本市図書館では、図書館サービスの向上に役立てるため、今年度はアンケート調査を下記の日程で実施しました。調査にご協力いただき誠にありがとうございます。調査結果を踏まえ、サービスの向上に取り組みます。

実施期間：令和7年12月11日～21日
実施方法：(来館) 上記のうち平日・休日それぞれ各館1日
(電子) 上記期間中、堺市電子申請システムにて受付
対象：図書館利用者
回答数：延べ3,839件
(内(平日)1,784件(休日)1,787件(電子)268件)



集計結果

- ・10時～11時台、次いで13時～14時台に来館・利用者数が多い。
- ・滞在時間は1時間未満が来館調査では約57%、電子調査では約89%と最も多い。
- ・来館頻度は月1～3回が来館調査では約49%、電子調査では約58%と最も多い。
- ・来館目的は来館調査では「本や雑誌を借りる・返す」が約67%と最も多いが、電子調査では「予約本の受取」が約86%と最も多い。
- ・知っているサービスについて、「ホームページの電子図書館で電子書籍を読むことができる」が、電子調査では約55%に対して、来館調査では約18%となっている。

図書館サービスについて

各問5点満点

質問	平均	質問	平均
①本や雑誌の種類や数はいかがでしたか	3.75	⑤職員の応接態度や説明はいかがでしたか	4.37
②本や雑誌の状態はいかがでしたか	3.84	⑥この図書館の開館日はいかがですか	4.17
③調べもの(調査・研究)に役立ちましたか	3.70	⑦この図書館の開館時間はいかがですか	4.04
④館内の過ごしやすさはいかがですか	4.01	⑧この図書館全体の満足度はいかがですか	4.16

その他 自由意見

- ・現在より早い開館を希望します。・図書館を新しく建て直してほしい。
- ・新しい本が少ない。・ブックフェアいつも楽しみにしています。
- ・子どもがテスト前に勉強ができるスペースがあればうれしい。
- ・調べ物で、たいへんお世話になりました。多くのことで相談にのっていただきありがとうございます。

アンケートの詳細はこちら▶
※過去の調査結果も掲載しています。



(中央図書館 企画情報係)

目次

- ・「図書館利用者アンケート」にご協力 ... 1
いただきありがとうございます!
- ・この本で解決!番外編
「国立国会図書館デジタルコレク ... 2
ション-昔の広告を調べる-」
- ・my door OSAKA と図書館情報 ... 2
システムがID連携を開始しました
- ・図書館の資料が堺市指定文化財に ... 3
指定されました!
- ・「中央図書館再整備に向けた基本的 ... 3
な考え方」を公開しました
- ・司書のイチ押し ... 4
『夜中にジャムを煮る』
- ・堺市立図書館電話番号一覧 ... 4

ゆづりは とは...

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは
こちらから▶





国立国会図書館デジタルコレクション —昔の広告を調べる—



調べものに役立つツールを紹介します

皆さんは「国立国会図書館デジタルコレクション」を利用したことはありますか。

国立国会図書館デジタルコレクションとは、国立国会図書館がデジタル化した資料を検索・閲覧できるサービスで、発行当時の形でデジタル化した資料や、インターネット上の刊行物を収集して公開しています。

堺市は図書館向けデジタル資料送信サービスに登録しているため、区域館のオンラインデータベース利用端末で利用していただくことができます。また、個人で利用登録していただくことで、ご自宅で閲覧可能な資料もあります。調べ物がある際には、ぜひ利用してみてください。



「国立国会図書館デジタルコレクション」はこちら▲

堺市内に所蔵がない本でも閲覧できるため、司書もよく利用しています。

最近では、図書館に「1940年代の日本における広告の内容や広告費の推移を知りたい。」というお問い合わせがあり、国立国会図書館デジタルコレクションで調べてみました。

国立国会図書館デジタルコレクションに「広告年鑑」とキーワードを入れて検索をかけてみると、『電通広告年鑑 昭和45年版』がでてきました。この資料では、昭和22年から昭和44年までの広告費の推移と媒体ごとの広告費が掲載されています。そのほか、『日本広告発達史 上』には、当時の新聞広告や代理店などの状況が、明治以前から太平洋戦争終結まで記載されています。

ちなみに、堺市内の図書館にある最も古い広告年鑑資料は『広告年鑑 昭和32年版』というもので、こちらにも当時のイラスト広告やポスター広告が一部掲載されているほか、統計資料も載っています。また、『日本広告表現技術史』では、当時活躍したデザイナーやイラストも知ることができます。今のCMと昔のCMを比べてみても面白いかもしれません。

国立国会図書館デジタルコレクションを使ってみたい、検索した資料を印刷したい、実物の資料が見たいときなどは、お気軽に図書館職員にお声がけください。

(北図書館 レファレンス担当)

【参考文献】 ※★は堺市で所蔵しています

- 『電通広告年鑑 昭和45年版』電通 1970
- ★『日本広告発達史 上』内川 芳美/編 電通 1980
- ★『広告年鑑 昭和32年版』萬年社 1957
- ★『日本広告表現技術史』中井 幸一/著 玄光社 1991

my door OSAKA と図書館情報システムがID連携を開始しました

さまざまな手続きをワンストップで行うことができるサービス「my door OSAKA」が堺市図書館情報システムと令和8年1月から連携しています。図書館の本の予約や電子図書館の利用時にmy door OSAKAのIDでログインできます。

また、スマホ版でログインした場合、ログイン後に貸出カード番号（バーコード）が表示されるようになりました。(中央図書館 企画情報係)



↑新しいログイン画面

詳しくはこちら！



図書館の資料が堺市指定文化財に指定されました！

当館所蔵の絵図「堺市第一次疎開地区記録」、「堺市疎開地記録写真帳 上・下」、「堺市疎開地記録写真台帳及びネガフィルム」が「堺市建物疎開記録関係資料」として堺市指定有形文化財に指定されました。



「堺市建物疎開記録関係資料」

建物疎開とは、空襲による延焼を防ぐために、建物を撤去することです。堺市では昭和19年夏から終戦までの間に、5回にわたって建物疎開が実施されました。そのため当時の堺市役所では、堺の文筆家、画家、写真家等によって結成された「堺芸術報国連盟」に委嘱し、取り壊す前の建物や風景を絵画や写真、文章で記録に残しました。昭和19年6月の公報には「これらが完成の暁は誠に貴重な資料になると共に一大総合芸術作品集として高く評価されることになるであらふ。」との期待が記されています。

当館で所蔵している「堺市第一次疎開地区記録」は堺芸術報国連盟が活動の成果とした堺市に納めたもので、郷土画家である岸谷勢蔵氏の丁寧な絵が描かれています。「堺市疎開地記録写真帳」は堺

市第一次疎開地区の記録保存作業時に撮影された写真をスクラップブックに貼り付けたものです。また、原版であるネガフィルムを記録保存するために複製したネガフィルムを210枚所蔵しています。これら資料群は、現在は失われてしまった戦前の堺旧市街地の町並みを克明に記録しており、他の自治体では同様の事例が見られない点でも、非常に貴重なものです。

そして、堺市指定文化財に指定されたことを記念して、これら資料について長く研究をしている堺市博物館の矢内学芸員に



講演会の様子

による講演会「図書館・博物館連携シリーズ『堺市第一次疎開地区記録』から見る堺区の歴史」を中央図書館で開催しました。資料の解説と当時の堺区の地域社会について講義いただき、参加者のアンケートでは「疎開地区記録が興味深く、おもしろかった」「勉強になり、来てよかったです」など好評でした。

4月1日より、堺市博物館で企画展「昭和の記憶」が開催されます。今回ご紹介した資料が展示されますので、ぜひ会場でご覧ください。

(中央図書館 地域資料担当)

【参考資料】

- 『堺市第一次疎開地区記録 昭和19年10月』岸谷 勢蔵／画 1944
- 『堺市疎開地記録写真帳 上・下』堺市 1945
- 『堺市疎開地記録写真(原版)』堺市／編 堺市 1945

「中央図書館再整備に向けた基本的な考え方」を公開しました

「中央図書館再整備に向けた基本的な考え方」を令和7年12月に策定し、堺市立中央図書館において市立図書館全館のバックアップ機能(中央図書館センター機能)及び貸出・返却・レファレンス等をはじめとした利用者サービスによる地域の図書館としての機能(中央図書館パブリックサービス機能)の2つがあると整理しました。また、建替候補地は都心部と大仙公園周辺エリアで機能・役割を分離することを最良として検討を進めます。

(中央図書館 企画情報係)



▲詳しくはこちら



司書のイチ押し



『夜中にジャムを煮る』

平松 洋子 / 著 新潮社

書誌情報はこちら



『夜中にジャムを煮る』
平松 洋子 / 著
新潮社 2008

『夜中にジャムを煮る』。このタイトル、なんだか美味しそうじゃないですか。私はその響きに惹かれて、この本を手に取りました。

本書は、日常の何気ないひとときを綴ったエッセイ集です。夜も更けた台所でジャムを煮る時間から、季節の移ろいや暮らしの中に潜むささやかな喜びまでが、道具の手触りや食材の匂いととも描かれています。

私が特に印象に残ったのは、蒸籠（せいろう）をめぐる話です。便利さや効率の良さが重視されがちな現代の台所において、蒸籠は決して手軽な道具とは言えません。使うたびに少しの準備が必要で、手入れにも気を遣います。それでも筆者は、蒸籠で食材を蒸す時間や、立ち上る湯気の様子、蒸し上がった料理の素直な味わいを、愛おしく語っています。そこには、「楽だから使う」のではなく、「その時間ごと味わう」という姿勢が感じられます。

この話を読んだことをきっかけに、私も蒸籠を使ってみようと思い、すぐに探しに行きました。蒸籠にもさまざまな種類があるようですが、私は筆者が使っているものと同じ、竹の蒸籠を選びました。筆者の言う通り、ただ野菜を切って蒸籠に入れて蒸すだけで、野菜のうまみが際立ちます。毎日使うわけではありませんが、蒸籠を使って料理をする

時間は、湯気の温かさを感じたり、ふわりと立ちのぼる匂いに包まれたりしながら、自然と気持ちがゆるむひとときになっています。

本書に出てくる、夜中にジャムを煮ることや蒸籠で蒸すことは、決して特別な出来事ではありません。けれども、ほんの少し手をかけ、時間をかけることで、そこに確かな喜びや温もりが生まれることを筆者は教えてくれました。その言葉は、決して押しつけがましくなく、読み手の生活にそっと寄り添ってくれます。

この視点は、『買えない味』や『平松洋子の台所』といった筆者の他のエッセイ集にも共通しており、食材や調味料、台所道具といった身近な存在を通して、日々の暮らしを見つめ直す姿が描かれています。そこにあるのは理想的で完璧な生活ではなく、少し面倒で、少し不器用で、それでも続いていく日常そのものの姿です。

本書を読み進めるうちに、これまで何気なく使っていた道具や当たり前のように過ごしていた時間が、以前よりも少しだけ愛おしく感じられるようになりました。また、いつもと変わらない食事の時間も、なんだかいつもより、ちょっと嬉しい時間になり、心がほくほく温まってきます。日常の中のとても小さな変化ではあるけれど、私の中では大切に愛おしい感覚です。忙しさの中で見過ごしがちな日常の温もりを、そっと思い出させてくれる、そんな一冊、ぜひ読んでみてください。(M・I)

【参考】

- 『買えない味』平松 洋子 / 著 筑摩書房 2006
- 『平松洋子の台所』平松 洋子 / 著 ブックマン社 2001



堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター-舳松人権歴史館	
移動図書館	244-3811	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850		
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166		
初芝分館	286-0071				



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>